

2024 年

12 月 17 日（火）

今日の予約は係の人から聞いていたらしい。「誰が来るのだろう、と思ったけど清ちゃんだよね」最初の会話がこれ。私以外に来る人はいないから。娘たちは「会いに行くよ」とは言ってくれないから一寸かわいそうだなとも思う。服を整理しようと入れ物を 3 つ持参した。まずは夏物をこちらに入れテレビ台の下に入れる。タンスを開けて名札別に整理し、ベッドの足下に洗濯出来たのが常時置いてあるのでそれをもう一つの入れ物にまとめて入れた。タオルは 2 枚ベッドサイドに掛けておく。自分ではタンスを開けず、この足下の洗濯物から取り出して着ているらしい。係の人が来てタオルなどあるかどうか確認していた。「すぐに使えるようにこちらに置きました」とベッドサイドを指さす。30 分などすぐに来てしまう。「今度来るときはお正月だからね」と言うとも淋しそうな顔をしていた。多分日にちが分かっているのだろう。私の誕生日も忘れてしまったようで「覚えてる？」と聞くと 12 月は覚えていたが 9 日を忘れている。「1 万円だけ頂戴」と言って了解を得た。毎年お小遣いをくれていたから。去年は覚えていたけどなあ。

12 月 5 日（木）

最近予約がすぐに取りれる。今週唯一の空き日で会いに行って来た。テレビを付けて寝転んでいた。外出用の上着を着たまま寝転んでいるので多分後がクシャクシャになっているだろうな。アパートにいるときも常時この上着を着ていたので部屋で見つけた時にはクリーニングに出して取っておいた物だ。すぐに衣類の整理に入る。秋から冬になったので着る物があるかどうか。タンスの中は夏物と冬物がごちゃ混ぜになっている。肌着や普段着の上下、寝間着と引き出しには書いてあるがこれは無視。今日も合服を着ている。調べるとパジャマのズボンが 2 本ゴムがない。いつも好きで着ていたセーターはほころんでいたし「それはもう着ない」というので持ち帰った。さて、服が足りない。今度行くときまでに冬服の着やすくて明るい色を買っておこう。「クリスマスプレゼント」と言って渡せば喜ぶかも。30 分あっという間に過ぎてしまった。

11月19日（火）

今月2回目、やっと行く事ができた。一寸忙しかったので遅くなったけど行ったら寝転んでカラオケを聞いていた。薄い服を着て上から外出用の上着を着ている。「他に服ないの？」とタンスをまさぐり冬用の服を上引き出しに入れて置いた。

緑の四つ切り画用紙に年賀状を貼った作品は部屋に飾ると白い壁とよくマッチしていい感じ。本人は眺めながら「こんなに書いたんだね」としきりと感心していた。「これを見た職員さんの反応が楽しみだね」と言い、あっという間に30分が過ぎて帰って行った。



11月5日（火）

姉のところに行って来た。ラジカセで歌を聴いていて穏やかな表情をしている。「時々曲が止まったりするので係の人に直してもらった」と言っていた。「昭和の人間なので懐かしい」とフランク永井の曲を聴いていた。話しをしている間も順調に動いているので「清ちゃんが来てくれたら途端にキチンと動いている」と意味も分からず感動していた。「年賀状終い」の便りを出したので3人の人から手紙が来ていた。封書の人「兼坂睦子先生」となっていたので「もうとっくの昔の事なのに『先生』だって」と何とも嬉しそう。新聞が溜まっていたので紐で縛って出しておいたが、新聞入れの台が埃で白くなっている。びっくりしてティッシュで拭き掃除。部屋は掃除をしてもらえるがここまでは行き届かないかも知れない。「話しができて良かった。来てくれてありがとう」と、やっぱり話し相手がいるのは嬉しいようだった。

10月17日(木)

「年賀状終い」のハガキを投函する。14枚。

10月15日(火)

先日頼まれた下着とフェイスタオルを持って行って来た。最近人数が減っているのかいつ予約を入れても希望通りにできる。係の人から聞いたように来ることは分かっていたらしい。リビングには3人ほどが車椅子に座っている。部屋には椅子も置いてあった。テレビを観ながら体操をやっていた。

早速持ってきた品を確認してもらいタンスに収め、一番肝心の「年賀状じまいのお知らせ」ハガキを見せる。「もうすぐ年末が来るので年賀状をどうしようかと思っていた」と何回も同じ事を言う。文字を中央揃えにしたのと左揃えにしたのを見せると「左揃えがいい」と即答。タイトルの「じまい」を「終い」・「年賀状でのご挨拶」と「年賀状のご挨拶」どちらにするか聞くとこれも即答で返事をくれた。さすがが言語学を専門とする経歴の持ち主。なんとも心強い。住所録を確認し去年もらった年賀状は借りて帰った。元気そうで何より。早速今日から印刷に入り投かんしておこう。

10月3日(木)

10月に入り、コロナ・インフルエンザのワクチン申込書、そして市長と市議選の投票用紙が来ていたので持って行った。1階の受付で書類を提出すると、選挙は1日にすでにこちらで行ったということで「直接会場に連れて行ってもらえるならそちらでやってください」とのこと。無理なので姉と相談して「皆様にお任せする」ということで棄権になった。新聞を取っているのでやっぱり選挙公報は別にしてベッドの上に置いてあった。「悪かったな」と思ったけど時すでに遅し。「予防接種は希望しない」と言っただけで受付で書類に希望するに○を打って渡してある。ある意味、施設に任せる事にした。「下着とフェイスタオルが足りない」ということだったので家に帰り生協で注文した。買い物に出かけなくて済むし、代金は口座引き落としになるのでとても助かる。今日の話し合いの中で「年賀状はもう終いにする」ことになった。10月中に文章を作って次回に見てもらい今月中に投かんしよう。11月1日には年賀ハガキが発売されるので、相手の方が余分に買うことにならないように。そんな話しをしていたら30分がすぐに過ぎてしまった。4階のロビーまで送ってくれた。

外は雨。合羽を着て長靴を履いて誕生祝いの「ちひろのカレンダー2025年版」と「ちひろのクリアファイル」と本「万葉のうた」を持って行った。雨に濡れないように厳重に袋に入れて。午後からは雨に風も強くなって、子どもたちがフウフウ言っただけで濡れて帰って来た。午前中の小雨の時で良かった。晴れ女、最近は雨女に変わりつつある。

9月19日(木)

姉のところに行って来た。今までだと予約が取りにくかったけど、今は前日でも、時間帯も自由に取れる。面会の人が少ないのかなあ。部屋に行くと新聞の番組欄を見ていた。ノックして扉を開けると一瞬びっくりしたような様子。「今日来ることを聞いていなかった」と言っていた。少し混乱の様子。でも嬉しそうにしてお喋りが始まる。ベッドの頭元に4-5冊も本が置いてある。点検すると借りた本があるので「借りた本は読み終わったらすぐに返さない」と言うのと「誰に借りたのか忘れた」と言う。「じゃあ、食事の時に本を持って行って「この本貸してくれた人ありがとう」と言って返せば」と言ったが、そのこ

とも忘れてしまうだろうなあ。本を貸してくれる人は、このフロアで唯一頭のしっかりしている人らしい。姉が部屋と逆の方に行くと「そっちじゃないよ」と教えてくれるらしい。面会に行ってもかつてのようにタイマーはないから時計を見ながら自分で気をつけてないと次の人が待っているといけない。「又来るね」と言って帰ろうとすると歩行器を使って食堂まで送ってくれた。部屋が暑くて（30 度設定）廊下に出ると涼しくてホッとした。

9 月 5 日（木）

朝がすごく涼しくなったけど残暑が厳しい。バイクで走っていてもこの先どれだけ姉のところに行けるだろうかと、つい思ってしまう。

部屋に行くと借りたラジカセで演歌をかけていた。「何か音が欲しくて」と言って CD ケースを眺めていた。リビングで寛いでいる人が 3 人。それぞれに思い思いの時間を過ごしているのだろう。部屋が暑くて汗が出る。係の人が椅子を持ってきてくれて、エアコンを 27 度まで下げてくれた。やっと冷たい空気が流れてきて一息つける。前回持ってきた下着のサイズを聞くと「丁度良いけど色がねえ」と言ってきた。「やっぱりなあ、黒っぽい色だったから」気に入らないようだ。生協で注文したから色の種類が無かった。サイズが分かったので次はもっと可愛いがらのを選んでみよう。服の整理をし足りるか調べ、本は何を読んでいるか見ると、最後まで読まないで次の本を読んでいるようだった。前回持ってきた「清兵衛と瓢箪」を読んでいるようだ。例のごとく「ここは良い。景色が良いし、食べ物もちゃんと用意してくれるし何不自由ない」と満足げだった。もうタイマーはないので 11 時近くなったので「又来るね」と言って分れてきた。元気で何よりだ。

8 月 23 日（金）

先日「小さくなって着られない」と言われた肌着を持ってアルクオーレに行ってきた。生協で注文したがい思いのほか早く届いて良かった。本当は反応を見たかったが面会の予約をしていなかったので受付に渡しておいた。生協で購入するのは同じものの追加ができるからだ。去年の冬に義妹に手伝ってもらって、行き当たりばったりでたくさんの衣類を買ったが、本人が特に気に入ってそればかり着ているので再度同じものが欲しいと思ったがどこの店かも分からない。量販店は品物が動くので同じものを買うのは難しいだろう。私はこういう買い物の時間が大嫌いで苦痛でしかない。生協で買えるようにネットの手続きをしたのですごく有り難い。

8 月 19 日（月）

月曜日の生徒さんが土曜日に変更になったので今日午前中に行ってきた。頼まれていたノートはもう書くところがなくて待っていたようだ。本は小説がいいと行っていたので『精兵とひょうたん』志賀直哉を持って行った。前回持って行った本を読み始めた所だったのでしばらくは持って行かなくても良い。改めて自分の本箱を見て私が読む本は今の姉には向かない本ばかり。（心理学とか老後の生き方とか）今回の本は「題名は知っていたけど読んでいない」との事だったので良かった。いつものように、ここで暮らすことの満足とワンワン動物園の様子、遠くに見える山肌が特に気に入っていると話してくれた。7 月に行なった面談のこと覚えているか聞いてみたがやはり覚えていない。「要介護 3 のままだったから令和 10 年までここにいられるから」と伝えたけど、今が何年か分かっていないようだった。30 分経ったので

帰ろうとしたら係の人が急いで来て「肌着が小さくて困っているのでもってきて欲しい」と言われ今使っているサイズを見て来た。体重の話になり「53 kgみたいだね」と言ったら調べてきて「54 kgです」と言われた。また増えたようだ。段々と私の体重に近づいている。服を買うときにサイズをどうしようか迷ってしまう。食堂では食事の後に会話もしているようなので居心地よく過ごしているからストレスもないのだろう。次は「9月に入ってから行く」と伝えておいた。

8月4日（日）

珍しく午後4時半からの予約でアルクオーレに行ってきた。先月行われた介護認定は「要介護3」に決まったので、黄色い保険証を持って行き事務所に渡してから4階にあがっていった。今回から面会が緩やかになりタイマーは無しで「ほぼ30分経ったら戻って下さい」と言われた。愛知県は今コロナがすごく多くなっているけど重症にならないからだろうか。4階にあがり部屋に行くとベッドで横になり新聞を読んでいた。今日は頭は元気。「清ちゃんがいないと私は何もできない」と何回も繰り返す。半袖の服が3枚ほどあったので持って行ったけどふくよかになったので多分着れないだろうと思う。本人は「持っていれば安心だから」と喜んでいた。「何か欲しい物がある？」と聞いたら「何もない」と言うけど「本は？ノートはまだある？」と聞いたら「ノートが残り少ない。A4は大きすぎるのでこのサイズがいい」（多分B5）次回には両方持って行くことになった。「本は小説がいい」と要望があった。難しい本は読めないと言っていたのでエッセイなどを持参していたがやはり小説の方が面白いらしい。（だよなあ）。

「次回はお盆過ぎに来るからね」と伝えて部屋を後にした。その頃はもう少し涼しくなっているかな。

7月16日（火）

生協から届いたパジャマ2枚とズボンを1本持ってアルクオーレに行ってきた。雨予報だったのですがく気をもんだけど晴れた。昨日娘に送迎をお願いしたら「仕事ですぐ近くにいるけれど、一旦迎えに帰ってからだと無理かも」と言われていたので合羽を着て行く覚悟をしていたけど晴れて良かった。午後からの面会は珍しい。先生の回診と重なったのでそばで見えたら、聴診器を当てるだけの簡単な診察だった。足の浮腫がないかを診て、外反母趾がひどいので「いつから？」とか聞かれた。「若いときからです」と応えておいた。診察が終わり持って行った服を試着してみたら多少の大きい、小さいはあるけれどこれでよし。サッカー生地のパジャマは軽くて気に入った様子だった。タンスの中を整理したらパジャマは4枚あるのでこれでいいか。バタバタしているうちにベルが鳴る。「診察時間と重なったね」と言う。「先生来たの？」・・・「えっ」今のことをもう忘れている。「先生何を話して行った？」って。「外反母趾の話」「ふ～ん。」新しいパジャマを着たままで歩行器を使いながらリビングまで送ってくれたが、そのまっついて来る。係の人がいて「今からお風呂だよ」と言うので「じゃあ風呂からあがったらこのパジャマを着たらいいじゃん」と言って帰ってきた。「じゃあね」と別れを告げてエレベーターに向うと、後で「珈琲飲む？」「私珈琲飲みたい」の会話が。

郵便が届いた。介護認定は「要介護3」だった。「多分大丈夫」と思っていたが現実となり一寸安心。令和10年までこのままらしい。

7月4日（木）

アルクオーレに行ってきた。部屋に入ると寝転んで新聞を読んでいた。テレビは切ってあった。顔色が一寸優れない。開口一番「グラグラがひどくてこれ（歩行器）がないと動けない」と訴えてきた。本はすでに何冊か持って行ってあったので今回は何も持って行かなかった。ラジカセを「先生に借りたまま時々歌を聴いている。懐かしい曲ばかり」とおいてあったCD3枚を見せてくれた。なるほど三橋美智也など私でも懐かしい曲ばかりだ。使い方が分からないのでやってもらうらしい。1枚2時間位だと言っていた。外は暑く（猛暑日）こちらも段々と夏バテ気味。それでも頑張っている顔をして話を聞いてきた。時々失禁をするらしい。ベッドの上に置いてあるパジャマは生地が厚い。夏用の枚数が足りない。「なにか必要な物はある？」と聞くが「贅沢はしたくないから」という意味のことを言っている。話を聞きながら「食べ物も与えられた物で不服はないようだし、せめて衣類くらいはきちんとした物を買ってこよう」と気持ちを決めて帰ってきた。そういえば部屋に新しい写真が飾ってあった。東公園に行ってきたらしい。恐竜のオブジェの前で車椅子で並んで記念撮影。「たまに外に出ると気分が変わって良い」と話してくれた。

夕方生協に電話をしてネットから服を注文できるよう教えてもらって早速夏のパジャマ1枚とズボンを1本注文した。パジャマは色違いでもう1枚買おうと思ったが着てみて良かったらと1枚だけにした。生協だとカタログが手元にあるのでいつでも追加が出来る。とても気に入っているラベンダーの服は入所の時に買った物なので一回見に行ったが同じ物はなかった。今度行くときは新しい着心地のいい服を2枚持って行ける。喜ぶ顔が見れたら私も嬉しい。

帰りにバイクの修理に行ってきた。オイルとタイヤの交換。随分すり減っていた。

6月20日（木）

アルクオーレに行ってきた。市役所の福祉課から来て、介護認定の面談があったから。1階の個室に案内され、姉が来るまでの間にこれまでの経緯を聞かれた。そこに車椅子に乗せられて姉が来ると「ああ、来てたの」と嬉しそうな顔。早速本人にたくさんのことを聞かれた。内容は私も興味津々。今回は私もいるし施設の人もいるので不安はなさそう。応えた内容に、そばにいる施設の看護師さんが時々首をかしげているのでおかしかった。新聞の切り抜きを見せて「読んで見て」これは得意分野、とてもしっかりと読める。「ここに来る前に何をしていましたか」「テレビを見ていた。岸壁の母をやっていた」「？」3つの品を出して「覚えておいてね。後で聞くからね」しばらく違う質問をしてから、さっきの①手の写真と②ボールペンを出して「もう1つ何だったっけ？」と聞くと「分からない」とのこと。時計でした。先ほど見せた時計を出して「これだったよ」と言うと、いきなり自分の時計を指さして「これは24時間持っていないと不安で私の大事な物」と話し始める。座ったままで足を上げたりする動作はしっかりと出来るが立って何かをやろうとするとこれは危ない。質問が終わって部屋に連れて行ってもらうと今度は看護師さんへの質問。先ほどの内容で間違っていた所を指摘していた。来る前に部屋のテレビはついてなくて音楽を聞いていたらしい。直前の記憶が曖昧とのことだった。日付などはしっかりと分かっている。部屋からリビングに行って食事が終わると自分の部屋が時々分からなくなるらしい。唯一認知症のない人がいて、「そっちじゃないよ」と教えてくれたりするらしい。何か新しいことをするのがとても苦手で事前に説明をすると「行かない、やりたくない」と言う。「とりあえず行ってみようか」と内容を説明しないで場所に連れて行き、他の人がやっているのを見ている内に「自分もやってみようか」という気持ち

になるらしい。先日聞いた習字も今はしっかりと筆を使って文字を書いているらしい。廊下に貼ってある作品を見てびっくりした。『夏至』の文字が筆の流れのいい立派な字か書けていた。新しいことは苦手だが、「とりあえず」の言葉を使いながら誘ってくれているらしい。半年過ぎて本人の性格を見ながらの対応に「流石！」と感心したがやはり預かると言うことは大変だと改めて思った。とても日常私が自宅で見れることではない。

認定の結果は 7 月中旬には分かるらしい。係のお医者さんにも「よろしくお願いします」と伝えてくれるらしい。(医者の所見もあるから)

6 月 18 日 (火)

アルクオーレから書類が届いた。4 月分の領収書と 5 月分の請求書。それに 7 月 31 日で切れる介護認定再審の書類も入っていた。改めて所得と通帳の残高が分かるようにコピーして持って行くようになっている。明日の仕事の合間に ATM に行って記帳して来よう。

6 月 2 日 (日)

今回の訪問は、前回行った帰りに予約をしておいた。1 週間前でも思う日程が取れなかったから。ところが天気予報はずっと雨。何回見ても変わらないのでキャンセルするか迷ったが小雨なら行こうと決めていたのでいざ出陣。走っている内にどんどん雨は強くなってきて着いた頃にはシャツまでびしょりになってしまった。姉にあげるつもりで持参したピンクの服、トイレを借りてここで上着だけでも着替え部屋に行く。寝転んで新聞を読んでいた。向田邦子の本が枕元に置いてある。「この本どうした？」と聞くと、「同じフロアにいる人がいつも本を読んでいる」と言う。「何を読んでいるの？」と話しかけたらこの本を貸してくれたらしい。表紙には付箋で、借りた人の名前と借りた日が書いてあった。5 月 22 日。「読むスピードがすごく遅くなった」と何回も繰り返している。「同じフロアの人に借りた」とこれも繰り返していた。6 月に行われる介護認定の面接。これなら要介護 2 になる可能性はないかも、と変な安心をした。書類は行ってすぐに受付に渡し、内容は全部あちらで書いて提出もしておいてくれるらしい。一緒に書くのかと思って時間の余裕をみて行ったが渡しただけ終わった。面倒な事をやって貰えるのが有り難い。松江にいる従姉妹に電話をしたが出ないので時間になり帰宅。帰りは持参した合羽をしっかりと着て帰ったら何と晴れ！時々降るもののあ～あ逆になった。

晴れ女 雨に降られて 雨女

5 月 21 日 (火)

16 日に行きたかったけれど午前中は一杯で入れず、少し遅くなったけど今日行って来た。ベッドの幅を使って横になりテレビを観ていた。とても元気そう。普通だったらアパートに一人で暮らしていても不思議じゃないくらい。衣服に季節感がないから相変わらずお気に入りの薄紫のジャージ上下を着ていた。冬物をタンスの一番下に全部移動し、持ってきた半袖の肌着は冬物の上に置いた。持参したピンクの七分袖の服はすぐに着替えて大きさの具合を見たが腰回りが太くなっていて窮屈そう。M を買っていいのか L にした方がいいのかも分らない。衣類の整理だけで時間は終わってしまった。横浜の生徒から手紙が来ていたので渡したが、封がしてなくて切れ目に差し込んだままだったのでその場で私も読ませてもらった。内容的にはパニックを起こすようなことでもなかったので良かった。植物画の事などが

書かれていた。「コップを持ってきて欲しい」という事だったので孫が使っていたアンパンマンの絵柄の
を持っていったら「ストローは？」と言われた。帰りに 100 均で買ってきたので次回持っていこう。でも、
 こういう生活用品をその都度持っていかななくても良いように、契約時に全部ひっくるめて頼んだは
 ずなのになあとちょっと不審。次回の面会日は 6 月 2 日（日）10 時で頼んで帰った。

5 月 2 日（木）

新しいトレーナーを持って行って来た。大好きなちひろの服。M サイズで良いと思ったけれど広げると
 随分大きく感じたので、その場で着てみたらこれでいい。着たらもう「これを着る」と気に入った様子。
 ついでにタンスの中を点検し、パジャマも冬から合に換え分厚いのはタンスにしまった。肌着も冬のし
 しか入っていない。家にある肌着も点検し枚数を揃えなくては。本人曰く。「私は 2 枚あれば良い」。自宅じ
 ゃあるまいしそんな訳にはいかない。「それぞれ 5 枚用意して下さい」と言われているがまあ最低 3 枚は
 必用だ。帰りにお世話して下さっている看護師さんから「半年経ったので生活状態をお話したい」と詳し
 く聞いてきた。①食事は完食 ②時間になると自分で食堂に来てくれる。③食事は自分で食べる事が出
 来る。④みんなと楽しんで会話は出来るが基本的には自室で新聞を読んで眠ったりテレビを見たり日記
 を書いたり本を読んだりして過ごしている。身体的には往診してもらっている先生からの指示で足のマ
 ッサージが必用との事でこれをやってもらうには自費で 1 回 3,000 円かかるそうだ。「全体に穏やかで自
 分の事は自分でやるようになっていたので 6 月に介護認定があるけどこのままだと要介護 2 になりそ
 う」とのこと。私もそれを一番危惧している。このところ表情が安定しているので行っても「今日は当た
 り、今日は不具合」という心配がなくなっている。「本や新聞を読みたい」と言うので配達をお願いして
 表情もすごく明るくなっている。どうするのかなあ。これで出て行くことになったらまた元の本阿弥。
 「安定するとこうなる人はたくさんいます。まあ何とかしましょう」ということだが痛し痒し。

4 月 18 日（木）

面会に行って来た。本当は 16 日火曜日に予約を取ったが午前中はもう一杯で取れなかったのが今日木
 曜日になった。曇り空だったが風もなくバイクで行くには丁度いい。部屋で先日渡した「三千円のつかい
 かた」を読んでいた。一度読んだけどもう一回読んでいるとのこと。「とても面白かった。借りた本なの
 で急いで返さない」と言っていたので「全然急がないよ。置いとくからゆっくり読んで」と伝え本の内
 容の話になった。「やっぱり読むことは楽しい」と言っていた。良かった、良かった！ 着ている服が冬
 服から合いの服に変わっていた。いつも来ている薄紫の服は洗濯に出して戻ってこないとのこと。お気
 に入りで乾くとすぐにそれを着ているらしい。「同じのを買って来ようか？」と言いつつ「岩崎ちひろの
 トレーナーにしようか。アパートを整理するときにもあまりにも汚くて捨てたからネットで買えるよ」と
 伝えておいた。家に帰り 2 枚ほど注文しておいた。「今度は 5 月に入ったら来るからね」と言っておいた
 のでその時持っていける。同じ部屋で毎日過ごす日々、刺激がなさ過ぎて私ならどうかなりそうだと思
 う。せめて少しでも刺激と楽しみがあればと本や新聞、着る服くらいどうにかせにゃ。

4月2日（火）

アルクオーレに行ってきた。予約は4-5日前だと行きたい日程が取れるが前日はまず駄目だと分かってきた。昨日までの大風が嘘のように収まり良かった。いつまでこうしてバイクで行けるかと気になるがまあ考えないようにしている。

今日は通帳のコピーを持って行った。収支をしっかりと把握しているようで「ここでじっとしているので働けない。路頭に迷うようなことはないようにと思って」と言っていた。「安心していいからね」と伝えておく。行った時は新聞を読んでいた。テレビはほとんど一日中付けっぱなしとか。残りの時間があと5分と言うときに出雲の従姉妹に電話をしてみた。前回約束してあって繋がらなかったのでもう何回も言わずに掛けてみた。電話に出たのですぐに姉と変わって話しをしている。おなじ事を何回も繰り返している。でも嬉しそう。従姉妹の方が「話し相手がなくなって寂しい」と言っていた。タイマーが鳴ったのでこれで終わり。まあ顔色もよく元気そうで良かった。新聞は翌日から来たのでとても喜んでいた。「感謝している」そうです。

3月24日（日）

アルクオーレより「会議資料と栄養指導」などの書類が2部送られてきた。署名をして1部返送。

3月21日（木）手紙投函

姉の友人（木村さん）から来た手紙の返信を投函。19日に行った時に撮った写真を入れて手紙を書く。

3月19日（火）

面会に行ってきた。まるで認知症は影を潜めた感じで表情がすごく明るい。まずは生徒さんからもらったポップアップカードを渡した。桜の花と御所車がきれいだ。「わあきれい」と喜んでくれた。それを手にしている姿を写真に撮った。お礼の手紙を出すのに使おうと思って。明るい表情がとてもいい。「何か欲しい物はないか」と聞くと「本を持ってきて欲しい」と言う。以前に聞いたときは「読む気がしない」と言っていたが。「新聞取る？」と聞くと考えていて「欲しい」と言う。帰りに事務所で聞くと2人くらい取ってる人がいるらしい。袋に入れて名前を書いて持ってきてくれるので事務所の人が部屋まで運んでくれるらしい。代金は新聞屋さんと直接話しをして口座引き落としにすればいいと教えてくれた。早速新聞店の名前と電話番号を書いたのをもらい、家に帰ってから電話をすると明日から入れてくれるという。あまりの速さにびっくりするだろうな。今月分はサービスということだ。出かける前に従姉妹に連絡をして、「電話をするから姉と話しをする」ことになっていたが、何回掛けても出なかった。そのうち時間になり家に帰ってから電話をしたら不具合だったらしい。

夕方からお礼の手紙を書き、投かんするばかりにしておいた。

3月5日（火）

姉宛に封書が届いた。宛名は、私の下に「兼坂先生」と書かれてある。元生徒さんからだ。前回親しい友人からの手紙を渡してパニックになったので、迷ったけど開封したら、きれいな折りたたみのひな壇がはいっていた。手紙が添えられていて「病院に見舞いに行きます」と書かれていてびっくりした。これは大変だ。ずっと頭を悩ませている。アルクオーレには20日過ぎころにいくつもりなので、手紙を渡して「この人覚えてる？」と聞いてみようと思っている。もし覚えていたらとても喜ぶと思うけど今の姿を見せて相手の方がショックを受けるかもしれない。何しろ崇拜しているようなので。まあしばらく自分の気持ちを落ち着かせよう。

3月3日（日）

月初めのアルクオーレ訪問。義妹が一緒に行くことになり「差し入れは何か良い？」と聞いて来たので「食べ物は持って行けない」と伝えたら「じゃあスタッフに」という事になり御菓子を買ってきてくれた。ひな祭りの日で丁度よかったかもしれない。タイマーを受け取り4階に上がっていくと、エレベーターを降りてすぐにお雛様が飾ってあった。いつも季節を感じられる物が展示されている。部屋に入り義妹を紹介し「初ちゃん」と聞いて思いだしたのか急に目が輝き、おしゃべりを始めた。窓からは眼下にワンワン動物園が見える。日曜日なのでお客さんも多く小さなワンちゃんが尻尾を振って走っていた。「この部屋とても気に入っている。料理をしなくても時間になると食べさせて貰えて、とても幸せ」と報告していた。夕方アルクオーレから留守電がはいっていたので連絡すると、御菓子のお礼と歩行器の件だった。今は施設のを借りて使っているが、「自分専用のを買って貰えないか」ということだった。了解の返事をする。見積が出たらまた連絡してくれるそうだ。義妹と夜話しをした。「部屋が殺風景だから写真を持って行こうか」と言う。殺風景という認識はなかったのでちょっと意外な気がした。姉が自分で撮った「お城と桜」の写真、「部屋で寛ぐ姉」の2枚をA4の大きさに伸ばしてラミネートしたのが飾ってある。本人の希望で大きな文字だけのカレンダーと姉が習字の時間に書いた作品も飾ってある。うーん、殺風景かなあ。お花は管理が難しいので控えて欲しいと聞いている。姉への接し方は「本人が希望する物だけを揃えそっと見守る姿勢」を貫いていきたいと私は思っている。

2月27日（火）

私宛に、姉の友人からハガキが届いた。年賀状を出した後ただ一人便りをくれた人だ。この便りを姉に渡した後、パニックを起こして「どうしたら良いか分からない」と電話をしてきたので、この友人には「事件勃発」と「片付け」の頁を読んでもらって姉の現実を知ってもらうために、ホームページのアドレスを書いておいた。読んでくれたらいい。姉よりも3歳年上とか。趣味を楽しんでいるとばかり思っていたと書いてあった。

従姉妹からも電話があった。みんな心配してくれている。今度行った時にこちらから電話を掛けて、たとえ数分でも話しをする事になった。

2月20日（火）

岡崎市から「高額介護（予防）サービス費支給申請書」が届いた。

1ヶ月支払った利用者負担の合計額が上限額を超えた分を申請により支給されるというものらしい。こういう面倒な書類はもう来ないと思っていたが来るんだなあ。早速今回は12月分が支給予定のようだ。振込先の銀行口座などを記入して投かんしておこう。

2月15日（木）

面会に行ってきた。珍しく食堂にいた。「部屋に行こうか」と一緒に移動する。立ち上がって歩行器に移る姿をじっと見守った。部屋には職員の人椅子を持ってきた。「今日面会に来ると聞いていたので誰かと思った」というので「他に誰が来るの？」と聞くと、時々お医者さんが来るらしい。今日の最大の仕事は、年賀状の住所をスマホに撮ることだ。何しろせっかく作った住所録がなくなっちゃったので、すぐに作っておきたかったから。借りて来ようかと思ったが手元になくてまたパニックを起こすといけないから写メにとることにしたのだ。「食堂で何してたの？」と聞くと「そんな所にいたっけ？」と逆に聞かれてしまった。悲しいかな、段々と会話が成り立たない。そうこうするうちに時間が来て別れたが、自分の頭もおかしくなってエレベーターに向う経路が分からなくなってしまった。何しろ同じフロアに4箇所も扉がある。向きを変えると目の前にも扉が。右を見るとそこにも扉が。まあI階に降りれば玄関には行けるのだが。。。前回3階で降りて失敗したので、今回は「何階でしたっけ」と受付で確かめてから上がった。ああ私の頭、どうしたものか。

2月2日（金）

知らない番号で電話がはいった。2回続けて入ったので気になってこちらからかけたら出ない。しばらくして向こうからかかってきた。姉だ。「この電話どうしたの？」と聞くと「店の人に借りてかけた」と言う。言葉が出なくて会話にならない。借りた個人の電話なのでちょっといらつく。（いやいやいらついても余計長くなる）と思い直して話を聞くと、前日渡した友人の手紙に対してどう対処して良いのか分からずパニックに陥ったようだ。事務所で預かって渡してなかった意味が分かった。その時「すぐに渡して置いてください」とお願いしたのが仇となったようだ。前回公衆電話からかけてきたときも、もらった年賀状に対してどう対応していいか分からずパニックになったようだ。見かねた職員さんが電話対応をしてくれたのだ。ちょっと考えてしまった。認知症OFFの時はしっかりと判断ができて手にした手紙をすごく喜んでくれるので刺激になると思い渡していたけど、もう外部との接触はない方が良いでしょう。悲しい現実だ。

2月1日（木）

先日電話がかかっていたので気になっていた。救急車が来るというのでいつものエレベーターは使えず奥のを使って4階まで行ったら、案の定どの方角に行っても良いのか分からない。近くにいた職員に聞いたら「睦ちゃんね、はいはい、睦ちゃん、面会だよ」と言って部屋まで案内してくれた。前回は間違えて3階で降りてしまって、名前を言うと「4階だね」とエレベーターの前まで案内してくれた。入居者が100人もいるのに、どこに行ってもすぐに分かるのがびっくり。今日の顔色はちょっと優れない。前回弟

から来た年賀状を渡して置いたので返事を書いたらしい。「ここにはポストがないから出して来て欲しい」というので預かった。東京の友達から封書が来ていたのでこちらに転送したが、届いているか聞いたら「もらってない」と言う。身の回りを探したけどないから事務所で止まっているのかもしれない。帰りに聞いたらあったので部屋に届けてくれるよう頼んでおいた。「携帯どうする？」と聞いたらやはり「操作が難しいからいらない」という結論になった。来ている服がぴったりで窮屈そう。体重が増えているかもしれない。何しろ動かないからなあ。「2週間後くらいに来るから」と伝えて25分の時間切れ。明け方まで降っていた雨は止み風もなくて良かったが、帰りは風が出てきて「午前中にして良かった」と安堵しながら、どうしても甘い物が食べたくなくてコンビニに寄って帰った。今日は認知症 ON の日だった。

1月23日（火）

姉のところに神奈川の友人から手紙が届いた。多分年賀状の返信に対してのお便りだと思う。新しい封筒に手紙を入れアルクオーレに送っておいたが投かんしてから切手の金額間違いに気がついた。63円の切手を貼って出した。戻ってくるか、相手から不足分を徴収するか？

（25日に戻ってきたので27日に切手を貼って出しておいた）

この投かんに出かけた間に電話がはいっていた。アルクオーレの公衆電話からだから多分姉だろう。立て続けに電話をしてくるなら携帯が必用かもな。相手が公衆電話だとこちらからかけることができない。今度相談してみよう。

1月18日（木）

先日頼まれていたハガキに写真を印刷して5枚ほど持って行った。A4サイズの写真は目玉クリップで壁に掛けておいた。見本で持って行ったハガキにはびっしりと何か書き込んであった。もらった年賀状への返事はすでに出してあることは理解できたようで「何もかもやってもらったようで」と言っていた。持って行ったハガキをみて「寒中見舞で出そうかな。でもあれこれ考えている内に寒中が過ぎてしまうかも。」と言ったので「過ぎたら、桜便りでも良いじゃん」と言っておいた。多分何も書かずに過ぎて行くだろうなあ。だけど考えることが大事だからこれでいいのだ♪ 雨が降っていたので「雨の中を大変だなあ、と思っていた」としおらしいことを言ってくれた。バイクなので雨を心配したが小雨だったので行くことができて良かった。喪中で来た人への返事は寒中見舞いにしてあるので確認してもらい投かんするので預かってきた。もしここにポストがあると一緒に投かんできるが、今度行ったら聞いてみよう。部屋の壁には歌詞が書いた紙が貼ってある。「これ何？」と聞くと早慶戦の応援歌をCDで聞かせてくれたらしい。カセットは1時間ほど置いていって取りに来たときにこの歌詞カードを壁に貼っていつてくれたとか。「早慶戦の歌は敵を倒すための物だと思っていたがお互いを鼓舞する歌だと初めて知った」と言っていた。「わせだ、早稲田、早稲田」とちょっと歌ってくれた。聞いたことがある。先日の『致知』といい、面白い人が出入りして、この部屋は段々と姉の生活空間に変っていく。「次回は2月になるからね」と伝えたら返事がなかったのもっと早く来て欲しいのかもしれない。冬は風が強かったりするので大変だ。

4階なのに間違えて3階で降りたら廊下の雰囲気が違う。部屋の入り口の名前も違う。係の人がいたので聞いたら「兼坂さんは4階です」と教えてくれた。100人ほど入居しているのに覚えているのかとびっくりした。このフロアを中心にして円形にエレベーターがあるのでここで間違えると違う方向の部屋に

行く。教えてくれた人が違う方向のエレベーターに案内してくれたので4階に着いたらまた迷ってしまった。本当に迷路に入ったようだ。しっかりしろよ！

年金機構からお知らせのハガキがアパートから転送されて来た。前にも来ていたので住所変更の手続きをお願いしたら書類を西田の住所に送ってくれることになった。「印の所に書き込んで返送してください」とのこと。未だにこんなことをやっている。

1月15日(月)

仕事を始めようと準備をしていたら電話が鳴った。登録していない番号だけど、先日から何回もかかってきている。出ると「私だけど」と姉の声。びっくりして「どこからかけてるの？」と聞くと「アパートから」と言う。「アパートでなくてアルクオーレ？」と返すと「そうそう」。アルクオーレの公衆電話からかけているらしい。係の人に連れて行ってもらってかけたらしい。緊急事態かと構えたが「年賀状を沢山の人もらったので返事を書きたいからハガキにあの岡崎城と桜の写真を入れて持ってきて欲しい」と言う。「年賀状なら返事を出してあるよ。もらった年賀状には全部返事を出してあるからね」と伝えただけで忘れている。どうも何回も読み返している内に自分の言葉で会話がしたくなったらしい。「じゃあ印刷して持っていくね」と返事をしたらそばにいた職員と変ってくれた。「お願いしたいことがあって困っていたので電話まで案内しました。これはアルクオーレにある公衆電話です。」と事情が分かった。電話は過去3回もかけてあった。早速この番号を登録する。電話を切ってから改めて面会の予約をするとほとんど午後しか空いてない。午後は風が出て危ないので18日午前中に行くことにした。改めてハガキと向き合い、「う～ん、同じ写真を入れて同じ物を再度送るのはなあ。」と迷って年賀状の写真はトリミングしてあるので元の写真をそのまま入れて空きスペースを作りそこに自筆でコメントを入れられるようにして5枚ほど印刷した。宛名はもらった年賀状を見ながら書くそうだ。「でも本当にそこまでやるかなあ」と疑心暗鬼な気持ちを封じて無駄になっても良いから持って行くことにした。あの写真が気に入っていたのでA4サイズに印刷して部屋に飾れるようにラミネートもした。



1月4日(水) 10時面会

10時の予約で9時半に家を出たら道が空いていて15分も早く着いてしまった。受付の人が4階のフロアーに「上がっても良いか」聞いてくれて了解が得られたので上がっていくとやっぱり寝ていた。今日は年賀状を持って行き連名の人はこちらを選ぶか聞いて来ることだったが、連名で来た人には連名で返すということだった。一言自分で書く気がないようだったので「もらったお便りは妹が届けてくれるので目を通しています」と追加しておいたら、「こんなに丁寧にしてもらって」と喜んでいて。ベッドの横にある冊子に目が行く。どこかで聞いたことのあるタイトル。『致知』手に取ってみるとすでいつものように線が引いてあり所々折り返してあった。本当なら付箋が欲しかっただろうに。「この本どうした？」と聞いたら誰かが部屋に置いていったみたいだと言う。「去年は全然本を読まなかったのが今年はしっかりと読みたいと思う。この手の本は好きなので丁度よかった。読みながらつい寝てしまうけどね」と笑って言う。「分かる分かる」今日はすごく頭が冴えているようだ。これが本来の姉の姿なんだけどなあ。良い会話ができて喜んで帰って来た。

年賀状はすぐに印刷したので5日の朝投かんしてこよう。